

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600376		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム和花 Aユニット		
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目4番12号		
自己評価作成日	令和1年6月20日	評価結果市町村受理日	令和1年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsyoCd=0193600376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和1年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴や買い物、外食など様々な希望に対して速やかに対応し、利用者様一人ひとりご自分のペースで生活ができるように取り組んでいる。また、趣味や経験を活かした生活ができるよう、絵手紙教室の先生に毎月来ていただいている。すべての居室にトイレが設置されており、夜間帯のトイレ通いがスムーズに行えるようになっている。居室にトイレがあることで安心感が生まれ安眠できる効果もある。高齢者複合施設となっており、1階には機能訓練室があり、充実した機能訓練を行えるようになっている。また、毎週専門職による音楽療法や体操も実施しており、認知機能、身体機能の低下予防に対する取り組みも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は白老町の幹線道路に面した商店が立ち並ぶ町の中心部に位置している。「終の住処」を目指し、在宅から施設入居まで、通い慣れた場所で職員・利用者同士馴染みの関係を深めていけるよう、グループホーム、デイサービス、介護付き有料老人ホーム、居宅介護支援事業所など目的の異なる施設を1ヶ所に集約した5階建て「高齢者複合施設」になっている。敷地内には日本庭園、バーベキューコーナーがあり、利用者等はゆったり散歩したり、皆で焼肉なども楽しんでいる。専門講師による運動機能訓練や、介護度が低くなるなどの効果がある音楽療法、座位でのヨガ、健康体操など様々な機能訓練を行っている。事業所理念にある「できる事」「したい事」を意欲的に行なえるよう支援し、趣味の作品の絵や習字、カラオケを楽しみ、笑顔の絶えない生活を目指す事を実践している。琴演奏のボランティア、小学生や中学生の訪問、幼稚園の運動会見学、幼稚園児が来訪し踊りを披露しながら利用者との交流を深めている。運営推進会議には町内会長も参加しており、災害時には高齢者複合施設は地域の避難場所となっている。職員研修は、内部研修や白老町グループホーム連絡会の研修を行っている。また、年2回の個人面談を行いキャリアパス研修を実施したり資格取得や向上心を持って働ける環境整備に努めている。重度化や終末期に向けた支援は、家族と話し合い家族の思いや利用者の状況を医師に相談、今後の対策の話し合いをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた基本理念をもとに、毎朝復唱し職員が共通意識を持ち、ケアに取り組んでいる。	法人理念と事業所理念「私達はその人らしさを尊重し・・・、アットホームな環境で笑顔の絶えない生活を目指している」を入社時に理念の意義を説明し、職員は朝礼での唱和とともにケアの中で理念を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域交流は少ないが、施設で開催する行事(クリスマス会や夏祭り)には保育園児等が来設され、踊りなどを披露していただき、地域との交流をする機会を作っている。	夏祭りには地域の方の参加や琴の演奏ボランティアが来訪して交流している。利用者は幼稚園の運動会見学や神社祭りに参加したりしながら地域の住民と交流をしている。又、小学生、中学生が年2回来訪して利用者と一緒に物づくりを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設け、いつでも見学等できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様等参加者の意見や話し合いを行い、スタッフの顔写真を貼りだしている。	運営推進会議は年6回開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族の参加の下、状況報告や行事、職員研修や音楽療法や健康体操等を報告しながら参加者より助言や意見をもらい運営に反映させている。	運営推進会議は行政、町内会長、民生委員、家族が参加をしながら細やかな状況報告を行っているが、家族の参加は少ない状況のため家族からの意見も取り込みたい。家族の参加で負担にならない範囲の参加工夫や、入所時の話し合いで協力関係を築くなどで取り組みに期待する
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼や町で開催している認知症の人を支える家族の集いなどに参加し、協力関係を築くようにしている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、町福祉担当職員とも連携をとり協力関係を築いている。又、利用者の困難事例など福祉担当者に相談、実直に対応してもらえる関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようにしている。	利用者の権利擁護や身体拘束等に関する内部研修を受け「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の徹底理解を図っている。また、身体拘束の具体的な禁止行為の内容を理解し、利用者の言動を抑制しない言葉遣いについても学びながら日々の介護に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、虐待に対して正しい知識を身につけるようにしている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際には、必ず説明し、署名捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見等反映するようにしている。	利用者の意向は日々の関わりの中から、家族の来訪時には話しやすい雰囲気を作りながら、要望や意見等を取り入れて運営に反映させている。毎月「和花便り」を発行して家族に送付し事業所の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和花ミーティングを月1回実施し、意見交換を行っている。また、業務の中でも話をするようにしている。	日頃から管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、会議等で出された意見や提案は運営に反映されることで、利用者の自立に繋がるような業務改善や行事計画等に結び付き、職員の働く意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や法人内の自己評価、キャリアパス研修の実施、資格取得による給料アップなどを行い、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修、外部研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白老GH連絡会に加入しており、研修などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、本人の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、家族の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認するとともに、関係機関からの情報提供も含め、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にあった生活リズムが作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡した際に、日常の生活の様子を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診や近所のお店に買い物に行くようにしている。	馴染みの店や神社祭り等に行ったりするなど馴染みの関係継続の支援をしている。又、施設内に理美容室があり、定期的に訪れる理美容師と新たな馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間などホールで一緒に過ごす時間を作り、交流できるようにしている。また、互いのユニットを行き来できるようにもしている。カラオケなどをして入居者様同士が関わりあえる時間を作っている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、該当者はいないが、該当者が出た際には、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取り。また、日常生活の言動から把握するようにしている。困難な場合は、カンファレンスを行い検討している。	利用者の気持ちと心に寄り添い、思いを汲み取ることを日々大切にし、動作や会話から利用者の希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りしている。また、日常生活の中で聞きえたことは記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの記録により把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的実施し、その都度話し合い介護計画を作成している。	日々の記録や利用者、家族の要望を聞きながら6ヵ月毎の介護計画の作成をしている。家族、医療関係者、ケアマネージャなど皆で話し合いながら利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成し、家族及び利用者から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入し、生活記録やアセスメントシートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や意向にあわせ、グループホームだけのサービスではなく、他部署と連携したりしサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療や娯楽に関する地域との連携はとれている。月1回絵手紙教室の先生に來設していただき、趣味を継続していける環境を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が遠いなどの理由からほとんどの方が協力医療機関へ変更されているが、主治医の変更等希望があれば対応するようにしている。	協力医療機関の町立病院で受診をしている。専門医療受診は、原則家族対応であるが、職員同行の受診も行っている。毎週1回、看護師が来訪し、利用者の健康管理を行っている。	

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師が来設し、連携をとっている。また、状態に変化があった際などは、協力医療機関との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、管理者が付添い病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人の状態が変化した場合には都度家族と相談している。	利用開始時に重度化や看取り対応指針を説明し、同意を得ている。重度化や終末期に向けて利用者、家族の意向を踏まえながら医師に相談し、今後の対策を話し合いながら共有を図っている。現在、看取りを検討の利用者もおり、今後に向けての話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルの設置。救命講習を受講するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。前年度課題の危険個所の整備や、毎朝ユニット毎に消火器などの点検をしている。施設は5階建てで、地域災害時は受け入れ対応可能な施設でもある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応のため、プライバシーの確保はできています。また、トイレの声掛けなど他者に聞こえないよう配慮し対応している。	尊厳について職員間で話し合う機会を設けて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないように職員に周知している。また、慣れなれしくならないよう心がけ対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の中や声掛けを行った際の表情や反応を見て、本人が何を望んでいるのかを把握するようにしている。買い物に出かけた際には本人に選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出をしたいと言った希望があれば、個々のペースで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に服装を一緒に決めたりしている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものがあれば別メニューで提供。一人ひとりの力を活かして食事の準備、片づけなどを行えるようにしている。	職員と利用者が一緒に食事の準備や後片付けをしながら食事の時間を楽しんでいる。寿司屋さんが来所して寿司パーティーをしたり、夏祭りは屋台で焼きそば、庭園では流しそうめん、バーベキュー、誕生食を楽しんだり等、食欲を高めたり、食事への関心を引き出す工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には食事量を調整している。また、定期的に栄養士に献立表を確認してもらい栄養バランスの調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛け見守りを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄状況を記録し、個々にあった排泄介助をしている。	チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、様子を観察しながら声をかけ、誘導を行い一人ひとりに合った支援を行っている。居室にトイレがあるため周りに気づかれないよう排泄用品の交換やトイレでの自主排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や健康体操、機能訓練等を行ったり、乳製品の提供で対応している。必要時には主治医の指示にて下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴日は決めておらず、本人より希望があれば入浴できるようにしている。	循環型の天然温泉で毎日が入浴可能である。浴室は広く明るく、脱衣所にエアコンが設置され常に快適な環境を整えている。広い浴室なので仲のよい利用者同士で入る場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決められた消灯時間ではなく、個々にあった時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更等あればその都度周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好を活かし、カラオケ、お酒などを楽しめるようにしている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい、外食したいなどの希望があれば、外出できるよう対応している。	近くの商店への買い物や公園へ散歩に行ったり、ドライブや初詣、花見や紅葉狩りと利用者の体調に配慮しながら外出の支援を行っている。2階屋上に庭園があり、日光浴や外気浴ができるので利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族より希望があれば、できるだけ本人で管理していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム内の電話はいつでも使用できるようになっている。希望により携帯電話を所持してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、浴室、居間には手すりを設置している。毎日、温度、湿度をチェックし、調節している。季節ごとにクリスマスツリーや鏡餅を置き、季節感を取り入れるようにしている。	明るく清潔な広がりリビングには利用者作品の絵や季節の飾り付け、習字等が飾られ、大きな食卓テーブルは習字の机になったり、ソファで思い思いに過ごすなど居心地の良い空間である。また、常に温度や湿度管理を行っており快適に過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来できるので、ラウンジで過ごしたい方、一人で過ごしたい方等個々の思いで過ごせる環境にある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地の良い空間を作る工夫をしている。	トイレ、洗面台が備え付けられた居室には以前の暮らしと同じ使い慣れた家具や飾り物等を置き、自分の家にいるような落ち着いた暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー。居間、トイレ、浴室には手すりを設置している。		